

第24回 国土交通大臣 「登録機械土工基幹技能者講習」試験問題

一般社団法人 日本機械土工協会

試験の注意事項

- 1 試験は、すべての会場において、同時刻に一斉に行う。
- 2 試験の日時は、令和2年6月28日（日）、13時30分から15時00分までとする。
- 3 試験開始後30分間を経過するまでは、退出することを認めない。30分経過後は退出可能となるが、一旦退出した者の再入室は認めない。
- 4 試験時間の途中で退出する場合は、問題用紙、解答用紙、受講票を机の上に置いたまま、退出すること（解答用紙は伏せて置くこと）。
- 5 試験問題の持ち帰りは認めない。
- 6 試験問題は、問題1から問題30までの30問からなる。
- 7 試験問題への解答は、正答と思われるものを1つ選び、以下の事項に留意の上、解答用紙の解答欄にマークすること。
 - ① 解答欄へのマークは、解答用紙の上部に記載例の「可」とされているように、HB（又はB）の鉛筆又はシャープペンシルで、マーク欄を丁寧に塗りつぶすこと。塗りつぶし方が悪い場合、無答扱いとして不正解となる場合がある。
 - ② 1つの問題に対し2箇所以上の箇所にマークした場合は、無答扱いとして不正解となる。
 - ③ 誤って違う箇所にマークした場合は、誤ってマークした箇所を消しゴムで丁寧に消すこと。消し方が十分ではない場合は、2箇所以上の箇所にマークしたものとみなされ、無答扱いとして不正解となる場合がある。
- 8 試験時間中は、監理者（試験立会者）の指示に従うこと。
- 9 試験場では、テキストやその他の参考書類の使用（机上に置くことを含む。）を禁止する。
- 10 試験時間中は、携帯電話、PHS等すべての通信機器類の電源を切り、鞆等にしまうこと。通信機器類を時計代わりとして使用することは認めない。
- 11 本試験では、電卓は使用できない。
- 12 試験時間中に不正行為を行った場合は、その時点で失格として退場させる。
- 13 試験問題の内容に関する質問（誤字・脱字の確認、漢字の読み方等を含む）には一切応じない。

【問題 1】 OJTを行う上で上司として持つべき基本認識として、**適切でないもの**はどれか。

- (1) OJTは、上司である自分の仕事そのものであるという認識を持つこと。
- (2) 部下のペースとは無関係に、上司が考える理想的なペースに合わせて教育すること。
- (3) 継続的に日常的に実施し、仕事のペースは落とさないこと。
- (4) 幅広い職務能力を育成するために、外部との接触の機会を提供すること。

【問題 2】 部下への指導方法に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 実例を話し「なるほど」と理解させ、体験させて納得させる。
- (2) 覚えたい気持ちにさせた上で、知っていることから知らないことへ進む。
- (3) 自分本位な仕事ぶりの部下に対しては、頭ごなしに叱りつけることが効果的。
- (4) 仕事の指示、命令を与えながら、「このようにしろ」と明確に教える。

【問題 3】 機械土工の作業に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) ローダ系の機械は、掘削・積込み能力があるが、バックホウは、掘削力が弱いので、切り崩しのブルドーザを必要とする。
- (2) ベンチカット工法は、上段先行で階段状に山を切崩していく方法であり、ショベル&ダンプトラック工法に適用される。
- (3) 機械土工の基本作業は、掘削→積込み→運搬→敷均し→転圧の繰り返し作業である。
- (4) 岩掘削においては、軟岩はリッパ、硬岩は発破による掘削が基本である。しかし発破が制限される場所では、ブレーカ等の無発破工法が採用される。

【問題 4】 特殊な基礎掘削に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 深礎工法は、先端に密閉作業室を設けて室内の気圧を高めて、地下水の侵入を防ぎながら所定の深度まで沈下させる方法である。
- (2) オープンケーソン工法は、構造物基礎や地すべり抑止杭として山岳地や傾斜地、狭い場所に用いられることが多い。
- (3) ニューマチックケーソン工法は、掘削に伴って井筒を沈下させて土止めを行う。
- (4) 深礎工法は、波板鉄板や山型鋼組合せリングで土止めをしながら、人力や超小型機械で掘削を進めるものである。

【問題5】 次の（ア）及び（イ）の記述は、土止め支保工の特徴について述べたものであるが、それぞれ何について述べているか、(1)～(4)のうち、**適切なもの**はどれか。

（ア） 切りばり、腹おこし、中間杭等の支保工と掘削側地盤の抵抗により土止め壁を支持する工法である。現場状況に応じて、支保工の数や配置の変更が可能であるが、機械掘削において支保工が障害となる。また、掘削面が広いと支保工が多くなる。

（イ） 良好な地盤で適切な根入れ深さを確保することにより、掘削側地盤の抵抗（受動土圧）によって土止め壁を支持し、支保工を必要としない場合の工法である。浅い掘削に適し、支保工がないので掘削が容易であるが、支保工がないため、土止め壁の変形が大きくなる。

- | | |
|-------------------|---------------|
| (1) (ア) タイロッド式土止め | (イ) 自立式土止め |
| (2) (ア) アンカ式土止め | (イ) タイロッド式土止め |
| (3) (ア) 自立式土止め | (イ) 切りばり式土止め |
| (4) (ア) 切りばり式土止め | (イ) 自立式土止め |

【問題6】 作業手順書にかかる下記の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 安全衛生管理は、「予防の安全」から「再発防止の安全」へと転換しており、作業手順書も、作業手順ごとの急所をまとめることに重点がおかれている。
- (2) 作業手順書の目的は、作業の中で発生するムリ・ムラ・ムダを取除き、「良い物を、能率よく、安全に仕上げる」ための最も理想的な作業の順序と急所を組立て、誰がやっても「基準どおり」同じ結果が得られるようにすることである。
- (3) 作業手順書に記載する内容は、具体的で簡潔にした方がよい。
- (4) 作業手順書は、新入社員や未熟練労働者に仕事を「安全に、正確で、早く」できるように教えるための必要な教材ともなる。

【問題7】 事前調査に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 現地踏査の調査項目には、自然条件、環境制約、仮設備の設置場所、工事用道路、重機搬入路等がある。
- (2) 周辺の人家、学校、病院等の状況については、設計段階で調査が終わり、現地踏査により改めて調査する必要はない。
- (3) 現地踏査では、設計図書等に示された内容の確認や不明点を調査し、現地の実態を正しく把握する。
- (4) 現地踏査では、地形、地質、土質を目でよく確認し、想定した土工機械や工法が可能か検討する。

【問題8】 土量計算と土量配分計画に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) メッシュ法による土量計算は、宅地造成工事のような面的拡がりの運土となる面土工において有効であり、計算方法には、プランメータや三斜法がある。
- (2) 原石山の採取工事のような山の上からの切下げ工事では、等高線法を用いると掘削進捗に従った土量が把握できる。
- (3) 面土工ではマスカーブを用いて土量配分を行い、線土工では、格子状に土量の分布をとらえて総仕事量（ Σ （土量×運土距離））が最小となるよう配分する。
- (4) 土量の変化率C（締固め土量／地山土量）は、搬土機械の作業量計算に用いられ、変化率L（ルーズ土量／地山土量）は、土量配分計画を行う際に必要となる。

【問題9】 土量換算係数 f を用いて求められる、地山土量、ルーズ（ほぐした）土量、締固め土量の関係に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

土量の変化率は次の通りであるものとする。

$$L \text{ (ルーズ土量／地山土量)} = 1.2$$

$$C \text{ (締固め土量／地山土量)} = 0.9$$

- (1) 地山土量が 450 m^3 のとき、ルーズ土量は 600 m^3 である。
- (2) 締固め土量が $1,080 \text{ m}^3$ のとき、ルーズ土量は 810 m^3 である。
- (3) ルーズ土量が 900 m^3 のとき、締固め土量は 675 m^3 である。
- (4) ルーズ土量が 720 m^3 のとき、地山土量は 540 m^3 である。

【問題 10】 工事用道路に関する次の記述中の、() 内に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものはどれか。

一般的な10t車の2車線運搬路は、(a)の幅員を確保することが望ましい。
運土走路の経路設定は、土量配分計画を基に、土取場と盛場の空間的位置関係から地形、設計速度を勘案して、縦断勾配・曲率・視距に配慮して計画するが、縦断勾配は、幹線では(b)、支線では(c)を原則とする。

- (1) a 4m～5m b 10%以内 c 15%以内
- (2) a 8m～9m b 10%以上 c 15%以上
- (3) a 4m～5m b 10%以上 c 15%以上
- (4) a 8m～9m b 10%以内 c 15%以内

【問題 11】 穿孔機による破碎工法に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- (1) 蒸気圧破碎工法は、火薬の代わりに蒸気圧を発生させる破碎薬剤を装填して岩盤やコンクリートを低振動で破碎するものであり、蒸気圧破碎薬剤の使用に関して、火薬類取締法の適用を受ける。
- (2) 静的破碎剤工法は、予め穿孔した孔の中に、生石灰系の膨張剤を充填し、時間経過により発生する膨張圧を利用してコンクリートや岩石を破碎する工法であり、蒸気圧破碎工法と比較すると、瞬時に破碎でき現場の環境温度に左右されない利点がある。
- (3) 蒸気圧破碎工法を行う場合、水和熱で練混ぜ水が水蒸気化して、その蒸気圧によって生石灰スラリが噴出現象を起こすことがあり、火傷、失明等の危険があるため、第三者の立入禁止措置と、事前安全教育を徹底する必要がある。
- (4) ベンチカット発破工法は、階段状にベンチ造成した上段ベンチから穿孔機で穿孔を行い、装薬後、爆破を行うものであり、穿孔列数は、国内では1～2列が一般的である。

【問題 1 2】 積み作業に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) スクレーパの積みは、プッシュドーザを付け、積み時間の短縮を図る。山砂積みを行う場合は、ポンプローディングを行うと良い。
- (2) バックホウの積みには、下段にダンプトラックを配置するトップローディングと、同一フロアで積込むボトムローディングがあり、通常は積み効率の良いボトムローディングで行う。
- (3) スクレーパの積み時間と積載量の関係は、始めのうちは、短時間に効率よく積込めるが後半は荷の入りが悪くなるので、ボウルが満杯になる最後までプッシュすることが時間効率を上げ、サイクルタイムの改善につながる。
- (4) ロードで積込む場合の積場のベンチ幅は、ダンプトラックの最小回転半径の3倍以上が必要である。

【問題 1 3】 運搬性に関する次の (ア) ~ (ウ) の記述のうち、**適切な記述はいくつあるか**。

- (ア)ブルドーザは、モータスクレーパより長距離の運搬に適している。
- (イ)コーン指数は、リップビリティの判定の指標となり、コーンペネトロメータにより測定する。
- (ウ)湿地ブルドーザは、車両質量に比例して接地圧が大きくなるが、普通ブルドーザは、車両質量が大きくなっても接地圧はあまり増加しない。

- (1) 適切な記述は無い
- (2) 1つ
- (3) 2つ
- (4) 3つ

【問題 1 4】 締固め作業と土の性質に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 鋭敏比の高い土は、こね返しやすくトラフィカビリティ確保が難しくなるが、盛土後、一定期間放置すると再び力学・化学・電氣的な結合ができて強度回復をする。このことをスレーキング現象と称する。
- (2) 土の透水とは、土粒子の表面に付着している水が、水分が多くなると間隙が水に満たされ流れる現象を言うが、一般に土粒子の粒径の小さい土は透水係数が大きく、粒径の大きな砂礫は透水係数が小さい。
- (3) 土に含まれている水分が土粒子の質量に対してどの程度であるかを百分率で表したものが含水比であり、 $(\text{土粒子の質量} + \text{水の質量}) / \text{土全体の体積}$ で求める。
- (4) 締固め機械による締固めは間隙中の空気の部分を圧縮し圧縮沈下を起こさせて締固めるが、間隙中の水を排出して締固めるには強制的に水を排出する方法が必要となり、このような排水を伴う沈下を圧密沈下という。

【問題 1 5】 ブルドーザの掘削押土作業に関する次の a ～ c 記述のうち、**適切な記述の組み合わせ**はどれか。

- a 掘削押土作業は、下り勾配を利用して作業効率を上げる。押土勾配は 20% 程度の勾配が最も生産性が高くなる。
- b 掘削押土作業は、押土（1 速）と掘削（2 速）を区別して行い、押土距離が長くなったら 2 段押しを行う。この場合の置き留めのタイミングは、ブレードの荷が半減したとき、又は 2 速に増速した後、少し荷が軽くなったときとする。
- c 掘削押土作業では、排土板の横から荷（土砂）が逃げないようにスロットドーピングで行う。スロットドーピングによる押土は 2 割程の生産性アップが期待できる。

- (1) a が適切な記述であり、b と c は不適切な記述である。
- (2) a と c が適切な記述であり、b は不適切な記述である。
- (3) c が適切な記述であり、a と b は不適切な記述である。
- (4) b と c は適切な記述であり、a は不適切な記述である。

【問題 16】 建設機械の輸送に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- (1) 全装備質量が 10 t までのブルドーザのうち、ブレードを装着した状態で幅 3.5 m 以下のものは、特殊車両通行許可を受けずに、低床式トラックによる輸送が可能である。
- (2) 一般的に全装備質量が 10 t 以下のバックホウは、幅・長さ・高さ共に問題なく、分解することなく輸送が可能である。
- (3) 分解輸送費の積算は、分解・組立等の工数に整備職の労務単価を掛け、クレーン賃貸料とトレーラ等の輸送費を差し引いて求める。
- (4) 道路法に定める制限値（幅、長さ、高さ、総重量、軸重、輪荷重、最小回転半径）の全ての項目が制限値を超える車両のみが特殊車両となり、特殊車両通行許可が必要となる。

【問題 17】 工程計画に関する下記の記述中の、() 内に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものはどれか。

機械土工の施工計画は、工種別の工程に機械セットを割り付けていくことである。その工程計画を作成するには、最初に (a) を捉えておく必要がある。つまり、工期内に終えるには、「月当たり何 m^3 運搬する必要があるのか?」、「日当たりでは何 m^3 になるのか?」をまず把握するのである。次に機械土工では「何日稼働できるのか?」を知ることが重要である。そこで、降雨データにより (b) を算定し、それから稼働日数を決定する。別に機械計画において、工種毎に組み合わせ機械を選定し、それぞれの機械能力計算を行うことにより、機械の月当たり作業量から (c) が求められる。工程計画では、機械を時間軸に割り振って、実際の投入台数と投入時期を決定するのである。

- (1) a 運土距離と運土量 b 稼働可能日数 c 必要施工速度
- (2) a 必要施工速度 b 稼働可能日数 c 必要延べ台数
- (3) a 必要施工速度 b 必要延べ台数 c 必要となるオペレータの人数
- (4) a 稼働可能日数 b 必要施工速度 c 当該工事の原価

【問題 18】 工程表に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- (1) 横線式工程表は、横軸に STA No. (ステーションナンバ) を示しているのので、施工箇所毎の工程把握が容易になる。
- (2) ネットワーク工程表は、作成が容易で工種毎の手順・所要日数が一目でわかり全体工程の把握も容易なのでよく使われる。
- (3) ガントチャートは、作成時に各工程の前後関係と工数を明確にするため、日程管理に優れた工程表である。
- (4) 座標式工程表は、道路工事のような線土工に適した工程表である。

【問題 19】 運土管理に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 道路工事においては、土量配分計画策定時に作成した計画土量柱状図に、出来高測量の結果の実績を重ねて表すと、切盛の進捗が一目瞭然となる。これに残土量に対するマスカーブを表示して残土量の土量配分を示すと良い。
- (2) ダンプトラックの運行管理システムの自動化では、従来、ノンストップ・トラックスケールと近接通信機、行先表示装置等を組み合わせたものがあったが、近年は、スマートフォンの GPS と携帯電話機能を利用した運行管理システムが利用されている。
- (3) 排水処理に関し、土取場では雨水や湧水によって作業効率を落とさないように、掘削面は切羽側に向かって下りの 3～5% の排水勾配をとる。
- (4) 仕上げ作業について、造成された地盤の粗仕上げはブルドーザによって行い、基準となる盤を最初に作り、丁張により高さを確認しながら徐々に基準となる盤を拡大させて仕上げていく。粗仕上げは中速で、細かい仕上げは低速で行う。

【問題 20】 盛土の締固め管理に関する次の記述中の、() 内に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものはどれか

盛土の品質管理に於いては、適切な撒出し厚と適切な締固めがなされているかの確認が重要である。品質管理の方法は一般的に、(a) と (b) に大別され、盛土材料の土質や含水比があまり変化しない現場では、(a) の方法が有効である。盛土の管理試験方法として、密度測定では (c) がよく用いられる。

- | | | | | | | |
|-----|---|--------|---|--------|---|-----------------|
| (1) | a | 品質規定方式 | b | 工法規定方式 | c | ポータブルコーンと現場 CBR |
| (2) | a | 工法規定方式 | b | 品質規定方式 | c | 砂置換法と R I 法 |
| (3) | a | 品質規定方式 | b | 工法規定方式 | c | 砂置換法と R I 法 |
| (4) | a | 工法規定方式 | b | 品質規定方式 | c | ポータブルコーンと現場 CBR |

【問題 2 1】 情報化施工に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) G N S S や T S による締固め回数管理に加えて、振動ローラに加速度計を取付け、地盤からの地盤反力を計測し、締まり具合を調べることができる。
- (2) 仕上げ整形では、設計図面データと G N S S や T S で得た位置情報を照合し、ブレード等の作業装置を制御する。マシンガイダンスは、ディスプレイ等の指示に従って、作業装置をオペレータがマニュアルで操作し、マシンコントロールでは、作業装置が自動制御される。
- (3) 敷均しの層厚管理に利用する場合は、日々利用する仕上げ高さの C A D データ（施工図）の作成が不要となる。
- (4) 無人化施工とは、人が立入ると危険な地区で遠隔操作により施工を行う方法であり、各地の災害復旧現場で活用されている。最近では 5 G や V R 技術の利用が始まっている。

【問題 2 2】 建設機械の燃料の品質に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) セタン指数とは、燃料が冷却されたときに燃料中に含まれるワックス分が固形化して析出する温度である。
- (2) 燃料の流動点は、燃料が自重で流れるのに必要な温度より 2. 5℃高い温度であり、くもり点より低い温度である。
- (3) 空気中の水分のように、燃料は飽和状態まで水分を溶解する。溶解する量は温度が高いほど多くなる。気温が氷点下になると、燃料から離れた分散水分が氷の微粒子となって燃料フィルタを詰まらせる。
- (4) 引火点は、燃料に炎を近づけたとき瞬時に発火する時の最低温度であり、軽油の引火点は一般的に 5 0℃～7 0℃である。

【問題 2 3】 工程管理に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 横軸に工期、縦軸に毎日出来高を取った毎日出来高曲線は、着工直後から生産量が一定であれば直線になるが、実際には、着工時と竣工間近では生産が上がらず、中間部の最盛期に生産が最大となる。
- (2) 工事日報は、その日に施工した工種別、機械別の稼働時間や運搬量を記録するもので、工程管理の基礎資料となり歩掛データの収集にもなるため、毎日作業終了後に確実に記載することが必要である。
- (3) マンゴ票は、日々の目標土量を設定し月次の生産累計土量を管理するために使用する。
- (4) 工程曲線（Sカーブ）は、予定と実績を累計曲線で比較できる出来高管理には向いているが、工種毎の日程等が不明なので、バーチャートに併記して管理することが一般的である。

【問題 2 4】 原価管理に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 原価管理とは、施工計画の全てを折り込んだ適正な実行予算書をつくり、それを一つの基準・目標として、実際原価がそれ以上となる様に統制を行うものである。
- (2) 施工出来高を損益分岐点以内に抑えるか、総原価を損益分岐点以上にすれば利益が出る。
- (3) 原価は、施工量増減の影響が無い変動費と、施工量の増減に伴って変動する固定費から構成される。
- (4) 一般的に、工期を短く（速く施工）するとコスト（原価）は下がるが、突貫工事のように、工期を短くしすぎるとコストは上がる。

【問題 2 5】 建設現場に新規に入場する時の教育に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。

- (1) 新規入場者教育は、労働安全衛生法において、「実施することが望ましい。」とされているものである。
- (2) 熟練者が以前従事した業務と同じような業務に従事する場合は、初めての現場で作業する場合であっても、当該熟練者に対し新規入場者教育を行う必要は無い。
- (3) 労働災害は、新規現場に入場した日から7日の間に高い割合で発生している。
- (4) 新規入場者教育は、送り出し教育の時間をなるべく短縮するために行う。

【問題 2 6】 建設工事による騒音・振動対策に関する次の記述のうち、**適切でないもの**はどれか。

- (1) 騒音・振動防止対策は、発生源での対策と伝搬経路での対策があり、発生源での対策には、遮音壁の設置や防振溝の設置がある。
- (2) 騒音、振動の防止対策に加えて近隣住民の了解を得ることが重要であり、工事の着工に先立って、説明会等により、工事の目的、施工方法、騒音・振動対策等について周知を図り納得してもらう必要がある。
- (3) 建設機械の老朽化、整備不良は騒音、振動の発生量を大きくする。例えばブルドーザはクローラの張力により走行騒音が変わるので、機械の状態を正しく保つことが騒音・振動対策になる。
- (4) 定置式機械は、建屋を設けることにより防音が可能となり、防音効果は壁が音を遮断する能力と室内の吸音力により決まる。一般的に壁の単位面積当たりの質量が大きいほど遮音効果が大きくなるが、建屋の防音効果は、遮断能力の最も小さい壁面に支配される。

【問題 27】 建設現場で、請負関係をもつ事業者の労働者が混在して事業を行う事業場（混在作業所）における安全衛生管理体制に関する次の（ア）～（ウ）の記述のうち、**適切な記述はいくつあるか。**

- （ア） 当該事業場の労働者数が15名の場合、特定元方事業者は、統括安全衛生責任者を選任しなければならない。
- （イ） 特定元方事業者は、関係請負人及びその労働者に対し、仕事に関して労働安全衛生法及び関係する命令の規定に違反しないように必要な指導を行わなければならない。違反していると認めるときは、是正のために必要な指導を行わなければならない。
- （ウ） 元方安全衛生管理者は、関係請負人の事業者の労働者の内から選任され、統括安全衛生責任者が管理すべき事項のうち、技術的事項について管理する。

- (1) 適切な記述は無い
- (2) 1つ
- (3) 2つ
- (4) 3つ

【問題 28】 労働災害が発生した場合に、事業者等に対し追及される責任等に関する次の記述のうち、**適切なものはどれか。**

- (1) 作業者の故意又は過失により災害が発生し他人を被災させた場合、その作業者の使用者は、労働安全衛生法に定める「両罰規定」により、損害賠償責任を負う場合がある。
- (2) 故意又は過失により他人の権利等を侵害した場合に問われるのが不法行為責任である。
- (3) 被災者やその遺族に対する補償は、労災保険による給付で充分賄えるものと考えられている。
- (4) 労働契約上の安全配慮義務違反となる場合は債務不履行責任が問われるが、この責任は、法令さえ守っていれば問われることは無い。

【問題 29】 建設機械の運転に関する法令上の規制に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- (1) 吊上荷重 1 t 未満の移動式クレーンを運転するためには、労働安全衛生法に定める技能講習の修了が必要である。
- (2) 建設機械施工技士は、合格した技術検定の内容に拘わらず、労働安全衛生法に定める各種建設機械の運転技能講習の全部が免除される。
- (3) 労働安全衛生法に定める技能講習の修了が運転するための要件である建設機械を、その資格が無い労働者に運転させた場合、罰則（運転させた事業者は 6 か月以下の懲役又は 50 万円以下の罰金、運転した労働者は 50 万円以下の罰金）の対象となる。
- (4) 機体重量 3 t 以上の車両系建設機械（掘削用機械）は、労働安全衛生法に定める特別教育を修了すれば運転できる。

【問題 30】 働き方全般に係る法律等の規定に関する次の記述中の、() 内に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものはどれか。

労働基準法が改正され、平成 31 年 4 月より、時間外労働を行わせることが出来る時間の上限が法律で定められたが、建設業においては、(a) までの間、この規定の適用が猶予されている。

入管法が改正され、平成 31 年 4 月より、在留資格「特定技能」による外国人の入国・就労が可能となったが、「特定技能 1 号」の在留期間の上限は、通算 (b) である。

- (1) a 令和 6 年 3 月 31 日 b 5 年
- (2) a 令和 5 年 3 月 31 日 b 10 年
- (3) a 令和 5 年 3 月 31 日 b 5 年
- (4) a 令和 6 年 3 月 31 日 b 10 年